



情報を正確に読み取り、思考・判断して自分なりの考え方や意見を表現できるか

校長 宮田卓郎

今年度からこれまでのセンター試験から大学入試も大きく変わります。現在の高校3年生の皆さんで、大学への進学を考えている人が直面している課題です。ということは、現在の中学生は、その入試改革後の4回生ということになります。1、2回の実施で、見えてきた課題が整理されて、改善された大学入試が本格的に始まる2回生といつてもいいのではないでしょうか。

ところで、全国学力学習状況調査は、よくメディアにも取り上げられますが、文部科学省が2007年より全国の小中学生の最高学年（小学6年生、中学3年生）全員を対象として実施しているテストのことです。今年度は、新型コロナ感染症による全国的な臨時休業により中止となりましたが、国語と算数・数学については、主として「知識」に関する問題（A）と、主として「活用」に関する問題（B）の2種類がありました。昨年度から、問題（A）と（B）を統合して

- 1 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- 2 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

という2つの大きな問題構成になりました。

これまで、宮崎県教育委員会は、「子どもたちに、はやく、正確に読み取る力の育成を！」と各学校に呼びかけてきました。その理由は、本県の子どもたちは、「調査問題を解く時間が足りない」と答えた割合が、全国平均よりもかなり高いという実態が浮き彫りになっていたためです。

今年度は、12月1日（火）、2日（水）に宮崎県教育委員会が実施する「みやざき小中學習状況調査」が第2学年で実施されます。昨年度までは4月の実施でしたが、本年度から12月の実施となります。市町村立小学校の230校、市町村立中学校の125校と五ヶ瀬中等教育学校（前期課程）、宮崎西高等学校附属中学校、都城泉ヶ丘高等学校附属中学校、調査の実施を希望する特別支援学校小学部・中学部、宮崎大学教育学部附属小学校、宮崎大学教育学部附属中学校が参加します。この調査の目的は、県内の児童生徒の学習の定着状況を把握・分析し、その結果をもとに、学校における学習状況の指導・改善に役立てることです。第2学年の生徒の皆さん是非意識してこの調査に臨んでください。そして、明らかになった学習状況の定着状況を基に、第3学年へ向けての学習の改善に生かし、義務教育の出口（進路選択）に備えていきましょう。

最後に、第3学年の皆さんには、12月に最後の三者面談が実施され、進路の最終決定をしていくことになります。自己実現に向けて学校生活や家庭生活の一日一日に真剣に取り組んでいきましょう。

参考までに、県立高等学校の一般入学者選抜検査における各教科の出題方針については、昨年度、一昨年度共に同じで、各教科共に、「基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、これらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等も見るようとする」となっています。本年度も大きく変わることはないと思われます。

なお、昨年度の県立高等学校の一般入学者選抜検査の結果が宮崎県教育委員会のHPに掲載されていますので紹介しておきます。合格者の国語の平均点は58.8点、合格者の社会の平均点は53.3点、合格者の数学の平均点は53.9点、合格者の理科の平均点は54.1点、合格者の英語の平均点は51.5点でした。